

2013年度 事業報告

2013年1月1日から2013年12月31日まで

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

はじめに

法人設立から6年度目は、活動の基盤となるシマフクロウの調査・パトロール、給餌を続けて実施し、その成果や課題をPR活動や環境教育、人材育成など、様々な手法で地域や社会に「シマフクロウと保護のとりくみの現状」を伝え、普及・啓発を推進した。新たな取組みとしては、将来の生息地保全に向けた植林の実施や地元小学校への出張授業を開始し、関係地域住民等が理解と関心を進める具体的第一歩となった。

活動の実施にあたり、町内外の賛同者や企業、行政、自治体、関連団体など広く多くの人や機関と連携し支援や協力を得ながら、シマフクロウ・エイドが目指す生息に関係する地域が主体に関わる次世代に続く保護の取り組みを推進した。

<各事業の概要>

I 保護・保全・支援事業

1. 補助給餌

1) 給餌

シマフクロウの繁殖を補助する給餌を実施するため、おさかな寄付で活きたヤマメを購入し、専用給餌池へ1月から12月までに合計9回、270kgを放流し、ほぼ毎日シマフクロウが魚を食べに飛来したことを確認した。法人設立から2013年度末までの6年間における給餌量は、累計48回1260kgとなった。



2) 給餌のための募金活動

「おさかな寄付」の募集をホームページ、フェイスブック等SNS、会報、イベント、入会パンフレット等で通年呼びかけた結果、計354,639円59件が寄せられシマフクロウ給餌用の活魚購入費に充当した。

2. 調査、生息地パトロール

シマフクロウの保護・保全活動の適切で効果的な実施に向けて、既存の繁殖ペアの行動調査や生息地パトロール、繁殖確認調査、繁殖候補地における生息確認調査を1月から12月までのべ346日間実施した。成果や課題は、環境教育や人材育成、エコツアー、PR活動等さまざまな切り口で、関係地域や関係機関、広く多くの人々へ広報し、シマフクロウの現状や保護活動について普及・啓発を推進した。

1) 繁殖ペア等の行動調査及び生息地パトロール

繁殖が確認されている地域において、成鳥、幼鳥、亜成鳥の行動を継続して観察し、繁殖生態の理解を深めデータを蓄積した。また環境の変化や繁殖に影響を及ぼす事項について注意を払う生息地のパトロールを1月から12月まで計292日行った。給餌池におけるシマフクロウの利用状況調査も通年行い、飛来するシマフクロウの採食状況や繁殖行動等を確認した。さらに他の大型ワシ類の飛来・採食状況を調査し、夏季以外のほぼ通年にわたりシマフクロウのための活魚を守る対策を行った。



2) 繁殖確認調査

生息や繁殖状況の把握を行う調査を適期に10日実施した。



3) 繁殖候補地における生息確認調査

生息および繁殖が確認されていない釧路管内の3箇所で行った生息確認調査を44日実施し、1箇所で行って繁殖ペアを確認した。

4) 調査・パトロールのための募金活動

「調査・パトロール寄付」「巣箱寄付」の募集を、ホームページ、フェイスブック等SNS、会報、イベント、入会パンフレット等で通年呼びかけた結果、計532,554円34件が寄せられ、各調査や生息地パトロール代、調査備品代に充当した。



3. 植林

シマフクロウの将来の生息地づくりに向けた植林を5月に実施し、町民、地元林業者、行政、当スタッフの11名で、広葉樹の苗木千本を植林した。植林後は、周辺を利用する野生動物の生息調査を6月から12月まで209日実施した。4種の哺乳類、15種の鳥類、2種の両性類を確認した。草刈や電気柵等のメンテナンスは6月から12月までに10日行った。



4. その他

1) 釧路総合振興局森林室森林室の立木伐採計画予定地において、当室と事前協議を行い、周辺のシマフクロウへの影響について注意を払った。

II 人材育成事業

1. 保護の担い手募集

ホームページや印刷物、イベント等で通年募集し、問い合わせに個別対応した。

2. 保護の担い手トレーニング

希望者1名が調査・生息地パトロール等の実践トレーニングを1月から12月までに142日取り組んだ。



III 環境教育事業

1. 地元の子どもたちに向けた環境教育

浜中町内小学校1校にシマフクロウをテーマとした環境教育を実施した。6月にスライドや教材を用いた屋内学習を実施し全校児童18名と先生方6名が参加した。7月には、野生鳥類の保護活動を体験する野外活動を実施し高学年5名が参加した。8月には、全学年対象の野外における体験活動を予定していたが雨天のため中止となり、6・7月の学習のふりかえりを後日実施した。実施につき痕跡など実物を体験する教材や雨天時用の教材を作成した。



2. 地域や社会に現状を伝える講演会

シマフクロウとその保護活動の現状を伝え、保護・保全への理解と関心を進める講演会を計7回行った。そのうち自主開催は3回(町内2回、東京1回)、外部主催での開催は4回(町内2回、道内2回：羅臼町、札幌市)となり、町内外の243名が参加し普及・啓発を推進した。



3、JICA研修講師

開発途上地域の経済や社会の発展に寄与し技術協力を行う国際協力機構 JICA の研修講師を10月に行い、絶滅危惧種シマフクロウとその保護活動の概要や、民による当団体の保護の取り組みについて、来日したNGOスタッフと日本人コーディネータ計8名に、2日にわたり室内外で紹介した。



IV エコツアーリズム事業

シマフクロウが直面する問題やそれに向けた保護活動への理解と関心を深めるツアーを会員向けに開催し、5月に1回実施し2名が参加した。ツアー収益の一部は、調査・パトロール費に還元しシマフクロウの保護活動に役立てた。



V PR 事業

シマフクロウの現状とそれに向けた当会の保護の取り組みを伝え、ビジョンを共有する人の輪を広げ、会の支援者を増やし、自主財源の確保を図る以下のPR活動に通年取り組んだ。

1. ホームページやSNSによるPR

年間を通じて、ホームページやブログ、フェイスブックで活動状況を随時発信した。

団体登録サイト等においては、団体情報や財務状況、活動状況を公開し、社会への関心と理解、信頼を推進した。会員、寄付の募集により、会員は計160名となり、寄付は、計1,974,896円113件が集まり用途目的別に活動に充当した。

2. 活動パネル展によるPR

当活動を紹介する「シマフクロウ・エイド活動パネル展」を10月中旬から3週間にわたり浜中町の霧多布湿原センターにて開催し、町内外の約900名が来場した。

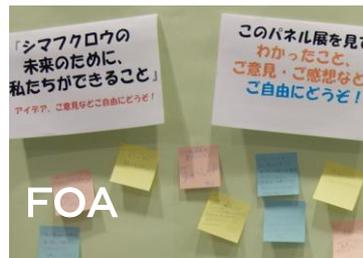
活動の原点や、NPO設立の理由、現在の取り組み、日頃観察するシマフクロウの紹介や危機的な現状、皆さまへのお願い、今後のとりくみ等について、パネル等約60点で紹介をした。



浜中町で3回目の開催にあたり、大型パネル絵本や、シマフクロウのパネルを新たに作製し、さらに参加型展示も設け、子どもから大人までが親しみながら「シマフクロウや保護の現状を知る第一歩」になる展示会場を作り上げた。

期間中、パネル展をさらに詳しく知る代表理事によるスライド・トークを開催し町内外の17名が参加した。

開催につき、助成金において株式会社 LUSH JAPAN、後援では認定NPO法人霧多布ナショナルトラストと浜中町教育委員会、広報では、鳥居新聞店、町内全学校・関係機関・店舗等40か所に協力を得た。



3. 印刷物による PR

1) 会報

会員向けに会報を毎月発行し、2013年12月で60号目を発行した。毎月の保護の取り組みやシマフクロウの行動、関連ニュース等を紹介し、会員へのさらなる関心と理解を推進した。寄付者には報告を兼ねて会報1号分を贈呈した。



2) 各種印刷物

関係地域の住民に普及・啓発を推進することを目的にちらしを作成・全戸配布し、地域の希少野生動物保護についての理解と関心を推進した。作業にあたり、浜中町役場、浜中町教育委員会、自治体の協力を得た。

入会パンフレットや活動概要においては、国内の既存設置協力先や新規設置協力先、イベント等活動 PR の場において随時配布した。

4. イベント参加による PR

7月、浜中町開催のイベントにブース出展し、パネルやパンフレット、スタッフを通じて、町内外の来場者に当団体の活動やシマフクロウの現状等について紹介し、普及・啓発を推進した。



5. 教材による PR

当団体の保護の取り組みをわかりやすく紹介し、関心や理解を進める展示物を作成し教材整備に取り組んだ。作成物は10-11月に開催した当会主催のパネル展で展示し、来場者約900名にシマフクロウと保護の取組みの現状や課題を伝え、「課題の自分ごと化」を推進した。



6. その他の PR

新聞、ラジオ等から会の活動について取材を受け、計5回対応した。

以上